

ふりがな

もり たけまる

氏名

森 武麿

1. 学歴

1968年3月 一橋大学経済学部卒業
1968年4月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程入学
1971年3月 同修了
1971年4月 一橋大学大学院経済学研究科博士課程入学
1975年3月 同博士課程単位取得退学
1999年2月 経済学博士 (一橋大学)

2. 職歴・研究歴

1975年4月 駒沢大学経済学部専任講師
1979年4月 駒沢大学経済学部助教授
1985年4月 駒沢大学経済学部教授
1993年4月 カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) アジア系アメリカ人研究センター客員研究員 (1994年3月まで)
1999年4月 一橋大学大学院経済学研究科教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

経済史入門, 経済史C

(b) 大学院

比較経済史, 日本経済史

B. ゼミナール

学部前期, 学部ゼミ, 大学院ゼミ

C. 講義およびゼミナールの指導方針

前期向けの入門講義では, 日本近代史を経済史の対象として, 歴史的展開の説明とともに, 歴史認識・方法論に関して, 学生に関心をもたせることを目標としている。

後期向けの専門講義では, 明治維新から産業革命をへて, 戦時経済にいたる日本の資本主義発達史を講義する。日本の近代経済史の全体的流れが分かるように時期別課題別に一回ごとにテーマを区切り述べている。講義の方法ではビデオ利用している。歴史的フィルムを学生たちに見せることは, 歴史教育にとり有効であり, 大変よい刺激になっている。もうひとつはレジュメを毎回用意し配付することである。とくに経済史では図表が大切でありそれを読み取る能力を養成したい。出席についても授業の感想, ビデオの感想などときどき行い, それを出席として成績評価にカウントしている。

大学院講義では、日本と西欧の歴史学・経済史学の学説史を比較検討するため、大量の文献を院生に読ませることにしている。経済史研究において、研究史をふまえた実証研究の大切さを教えている。

学部のゼミナールでは、テキストを決めて輪読形式で報告させている。とりわけ報告者には問題提起、その他の学生には討議への積極的な参加を求めている。一回のゼミで必ず全員が発言するように指導し、プレゼンテーションの能力を養成する。大学院のゼミでは研究テーマに即して実証研究と研究史整理の統一の重要性を教えている。

4. 主な研究テーマ

(1) 昭和恐慌から戦時期に至る日本農村社会

『戦時日本農村社会の研究』(東京大学出版会, 1999年)において、昭和恐慌から戦時日本農村社会の再編成を「農村中堅人物」に焦点をすえて分析した。1930年代から戦時体制への移行を地域レベルの社会経済過程から解明すること。

(2) 大正デモクラシー期の日本農村社会

『近代農民運動と支配体制』(編著・柏書房, 1985年)において、農村社会経済の変動を農民運動に焦点をすえて「協同主義」による政治的支配の変化に結びつけた。戦間期の社会運動を分析することによってデモクラシーからファシズムへの転換の過程を解明すること。

(3) 戦後改革・復興期の日本地域社会

『地域における戦時と戦後』(日本経済評論社, 1996年)において、戦時から戦後改革、経済復興期にいたる構造変化を、「農村都市」を焦点として、地方都市と農村社会の関連のなかに跡づけた。戦後変革を地域レベルの社会経済過程からとらえることによって高度成長への道筋を解明すること。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

『近代農民運動と支配体制 1920年代岐阜県西濃地方の農村をめぐって』(編著) 柏書房, 1985年6月。

『財閥・恐慌・社会運動』(週刊朝日百科「日本の歴史」113)(共編著) 朝日新聞社, 1988年6月。

『栗原百寿農業理論の射程』(共編著) 八潮社, 1990年5月。

『アジア・太平洋戦争』(「日本の歴史」第20巻)(単著) 集英社, 1993年1月。

『現代日本経済史』(共著) 有斐閣, 1993年3月。

『50年目の証言 アジア・太平洋戦争の傷跡を訪ねて』(単著) 集英社, 1995年7月。

『地域における戦時と戦後 庄内地方の農村・都市・社会運動』(共編著) 日本経済評論社, 1996年2月。

『戦時日本農村社会の研究』(単著) 東京大学出版会, 1999年6月。

『資本主義の発展と地方財閥 庄内風間家の研究』(共著) 現代史料出版, 2000年6月。

『現代日本経済史(新版)』(共著) 有斐閣, 2002年9月。

『新版財閥・恐慌・社会運動』(週刊朝日百科「日本の歴史」103) 朝日新聞社, 2004年5月。

『戦間期の日本農村社会 農民運動と産業組合』日本経済評論社, 2005年2月。

『アジア・太平洋戦争』(監修) ポプラ社, 2006年3月。

(b) 論文(査読つき論文には*)

* 「日本ファシズムの形成と農村経済更生運動」『歴史学研究』1971年度別冊号, 1971年1月。

- 「農業恐慌の激化と自力更生運動」『太平洋戦争史』第2巻,青木書店,1971年12月。
- 「経済新体制」『太平洋戦争史』第3巻,青木書店,1972年4月。
- * 「戦時体制下における産業組合」『一橋論叢』第70巻第4号,1973年10月。
- * 「日本ファシズムと農村協同組合」『日本史研究』第139・140合併号,1974年10月。
- 「八千代町」『茨城県史 市町村編』,1975年3月。
- 「戦争と地主制」『日本史を学ぶ』第5巻,有斐閣,1975年10月。
- 「養蚕畑作地帯における農村経済更生運動の展開」上『御殿場市史研究』,1976年3月。
- 「東北地方における農村経済更生運動と翼賛体制」『駒沢大学経済学論集』第8巻第1号,1976年4月。
- 「戦時下農村の構造変化」『岩波講座日本歴史』第20巻,岩波書店,1976年4月。
- 「水田単作地帯農業調査報告 山形県東置賜郡川西町」『駒沢大学経済論集』第8巻第2号,1976年9月。
- 「養蚕畑作地帯における農村経済更生運動の展開」下『御殿場市史研究』,1977年3月。
- 「農民諸階層の対抗と再編」藤原彰・野沢豊編『日本ファシズムと東アジア』青木書店,1977年6月。
- 「農村経済更生運動と部落」(農村組織研究シリーズ第12集)農林中金研究センター,1977年12月。
- 「農村経済更生運動と村落」村落社会研究会『研究通信』No.111,1978年5月。
- 「戦時下の民衆生活」木坂順一郎編『新書日本史』第9巻,有斐閣,1978年5月。
- 「戦時体制と農村」中村政則編『体系日本現代史』第4巻,日本評論社,1979年4月。
- 「近畿地方における地主経営の展開」『史艸』第20号,1979年11月。
- 「河内村」『茨城県史 市町村史』,1981年9月。
- 「戦時体制下の政治と社会」『結城市史』第6巻,1982年3月。
- 「地主経営の展開」『結城市史』第6巻,1982年3月。
- 「日本ファシズムと都市小ブルジョワジー」日本現代史研究会編『日本ファシズム(2) 国民統合と大衆動員』大月書店,1982年7月。
- 「太平洋戦争下のくらし」金原左門・竹前栄治編『昭和史』有斐閣,1982年6月(89年増補版)。
- 「コメント・1930年代の農業」『1930年代の日本経済』東京大学出版会,1982年4月。
- 「戦間期近畿における産業組合」『駒沢大学経済学部紀要』第41号,1983年3月。
- 「農業構造」1920年代史研究会編『1920年代の日本資本主義』東京大学出版会,1983年6月。
- 「史学・経済史学における村落研究動向(明治以降)」『村落社会研究』第19集,1983年6月。
- 「1930年代における農業構造の変化と農村再編」『土地制度史学大会報告要旨』1983年10月。
- 「農村の窮乏と恐慌対策」『茨城県史 近現代編』,1984年3月。
- 「経済更生運動と満蒙開拓」『茨城県史 近現代編』,1984年3月。
- 「戦時統制経済」『茨城県史 近現代編』,1984年3月。
- 「統制経済と配給生活」『婦人通信』1985年3月。
- 「農村の危機の進行」『講座日本歴史』10,近代4,東京大学出版会,1985年8月。
- 「近代農民運動と農村支配体制に関する覚書」『私学研修』No.102,1986年7月。
- 「共同体」論の復権『歴史評論』第440号,1986年12月。
- 「茨城県長竿村小作争議の展開」東敏雄・丹野清秋編『近代日本社会発展史論』ペリかん社,1988年3月。
- 「商品取引所と商業会議所」『新潟県史 通史編』近代,1988年3月。
- 「農事改良と輸出米検査」『新潟県史 通史編』近代,1988年3月。
- 「農会と産業組合」『新潟県史 通史編』近代,1988年3月。
- 「新潟県農事懇話会」『新潟県史 通史編』近代,1988年3月。

「農政調査会」『新潟県史 通史編』近代 ,1988 年 3 月。

「むらと重立」『新潟県史 通史編』近代 ,1988 年 3 月。

「米穀取引所の盛衰」『新潟県史 通史編』近代 ,1988 年 3 月。

「商業会議所の成立」『新潟県史 通史編』近代 ,1988 年 3 月。

「中小商工業者と商工会議所」『新潟県史 通史編』近代 ,1988 年 3 月。

「商業統制と経済警察」『新潟県史 通史編』近代 ,1988 年 3 月。

「新潟商工経済会」『新潟県史 通史編』近代 ,1988 年 3 月。

「小作争議と農民組合」『財閥・恐慌・社会運動』朝日新聞社,1988 年 6 月。

「戦前における小田原地方の産業構成」『おだわら 歴史と文化』第 2 号,1988 年 12 月。

「占領期の日本経済」『日本同時代史』第 1 巻,青木書店,1990 年 9 月。

「ファシズム下の農村と女性」『女と戦争』昭和堂,1991 年 12 月。

「両大戦期の村落共同体」『家族と共同体』青木書店,1992 年 10 月。

「戦後改革と農村社会 連続と断絶」中村政則編『日本の近代と資本主義』東京大学出版会,1992 年 12 月。

「経済安定本部の役割 日本再建の参謀本部」『戦後日本経済史』(『エコノミスト』創刊 70 周年臨時増刊号) 毎日新聞社,1993 年 5 月。

「インフレと金融緊急措置令」『昭和 20 年 / 1945 年』小学館,1995 年 5 月。

「財閥解体と GHQ 経済官僚」『昭和 20 年 / 1945 年』小学館,1995 年 5 月。

「賠償問題」『昭和 20 年 / 1945 年』小学館,1995 年 5 月。

「総力戦体制をどうとらえるか」『年報日本現代史』第 3 号,1997 年 8 月。

「農村社会とデモクラシー」南亮進・中村政則・西沢保編『デモクラシーの崩壊と再生 学際的接近』日本経済評論社,1998 年 2 月。

「現代史のなかの小田原」(座談会)『おだわら 歴史と文化』1998 年 3 月。

「東北地方における農地改革 山形県三泉村の事例」『駒沢大学経済学部紀要』第 57 号,1998 年 3 月。

「戦後改革と地方財閥」中村政則編『日本近現代日本史の新視点』吉川弘文館,2000 年 12 月。

「足柄県の勸業政策」『小田原市史 通史編』近現代,2001 年 3 月。

「地租改正下の村むら」『小田原市史 通史編』近現代,2001 年 3 月。

「商工業と小田原実業界」『小田原市史 通史編』近現代,2001 年 3 月。

「農事改良と耕地整理」『小田原市史 通史編』近現代,2001 年 3 月。

「第一次大戦下の企業勃興」『小田原市史 通史編』近現代,2001 年 3 月。

「産米改良と農産物市場の発展」『小田原市史 通史編』近現代,2001 年 3 月。

「震災・恐慌対策と重化学工業」『小田原市史 通史編』近現代,2001 年 3 月。

「農村更生と食糧増産」『小田原市史 通史編』近現代,2001 年 3 月。

「経済復興と企業再建」『小田原市史 通史編』近現代,2001 年 3 月。

「農地改革」『小田原市史 通史編』近現代,2001 年 3 月。

「食糧危機と市民生活の再建」『小田原市史 通史編』近現代,2001 年 3 月。

「工業誘致と地場産業の発展」『小田原市史 通史編』近現代,2001 年 3 月。

「商店街の発展と金融・流通業」『小田原市史 通史編』近現代,2001 年 3 月。

「新農村建設と農業構造改善事業」『小田原市史 通史編』近現代,2001 年 3 月。

「大量消費生活の始まり」『小田原市史 通史編』近現代,2001 年 3 月。

「農村生活の変貌」『小田原市史 通史編』近現代,2001 年 3 月。

- 「流通再編と農業の危機」『小田原市史 通史編』近現代, 2001年3月。
- 「1950年代の地方都市と農村 小田原市の事例」『人民の歴史学』第149号, 2001年9月。
- 「満州移民 帝国の裾野」歴史科学協議会編『歴史が動く時・人間とその時代』青木書店, 2001年10月。
- 「戦前と戦後の断絶と連続・日本近現代史研究の課題」『一橋論叢』第127巻第6号, 2002年6月。
- "Colonies and countryside in wartime Japan," *Farmers and Twentieth-century Japan* Edited by Ann Waswo and Nishida Yoshiaki, Routledge Curzon, London, 2003.
- 「地域史をひらく 下伊那の近代から」『飯田市史歴史研究所年報』創刊号, 2003年12月。
- "Colonies and Countryside in Wartime Japan: Emigration to Manchuria,"
<http://www.japanfocus.org/article.asp?id=130>, *Japan Focus*, 2003.
- 「戦時日本の社会と経済 総力戦論をめぐって」『一橋論叢』第131巻第6号, 2004年6月, 171-182頁。
- 「満州開拓地を歩いて考える」『年報日本現代史』10号, 2005年5月, 153-183頁。
- 「1950年代の新農村建設計画」『一橋大学研究年報 経済学研究』2005年10月, 3-82頁。
- 「総力戦・ファシズム・戦後改革」『岩波講座 アジア・太平洋戦争』第1巻, 岩波書店, 2005年11月。
- 「戦時下農村と植民地 満州移民を中心に」西田美昭・アンワズオ編『20世紀日本の農村と農民』東京大学出版会, 2006年1月。
- 「両大戦と日本農村社会の再編」『歴史と経済』191号, 2006年4月, 31-40頁。
- 「日本近代農民運動と農村中堅人物」『一橋経済学』創刊号, 2006年7月, 15-34頁。

(c) 翻訳

- サンドラ・ウイルソン「昭和恐慌と満州移民」西田美昭・アンワズオ編『20世紀日本の農村と農民』東京大学出版会, 2006年1月。

(d) その他

[自治体史編纂・史料復刻編集]

- 『千葉県の歴史 通史編近代2 現代』千葉県史料研究財団, 2006年3月。
- 『千葉県の歴史 資料編現代6(産業・経済3)』千葉県史料研究財団, 2006年3月。

[書評]

- 『横浜市史』, 第3巻(上)『市史よこはま』第15号, 2003年3月。
- 広川禎秀『恒藤恭の思想史的研究』ミネルヴァ書房, 『日本史研究』2005年11月。
- 『青森県史 資料編 近現代3』, 『弘前大学国史研究』第119号, 2005年10月。

[随想]

- 「地方史研究の道」(巻頭随想)『千葉史学』41号, 2003年1月。
- 「同時代史と地域史」『同時代史ニューズレター』第4号, 2004年4月。
- 「群れると村(むら)」一橋大学広報委員会『HQ』10号, 2006年1月。
- 「日中韓ナショナリズムの相剋」『同時代史ニューズレター』第6号, 2006年9月。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表

「戦時日本の社会と経済 総力戦と現代化」中国社会科学院日本研究所主催国際シンポジウム, 北京中国社会科学院 (北京), 2003 年 9 月。

「日本近代農民運動と農村中堅人物」台湾史研究所 (台北), 2005 年 7 月。

「中村政則『戦後史』(岩波新書) 合評会」報告, 東京経済大学, 2005 年 10 月。

「両大戦と日本農村社会の再編」政治経済学・経済史学会大会共通論題報告, 新潟大学, 2005 年 10 月。

「定住民・移住民と「公共性」」第 66 回公共哲学京都フォーラム, 京都, 2006 年 1 月 7 日-8 日。

「コメント・戦後日本農村の変貌」歴史学研究会大会現代史部会コメント, 学習院大学, 2006 年 5 月。

(b) 国内研究プロジェクト

「1950 年代地域史の総合的研究」, 文部科学省科学研究費助成 (基盤研究 C), 2002-2005 年度, 研究代表者

(c) 国際研究プロジェクト

「日本史研究における東アジア認識の再検討」一橋大学・ソウル大学, 文部科学省科学研究費助成 (基盤研究 B), 2003-2006 年度, 研究分担者 (代表者一橋大学吉田裕)

「日本・朝鮮間の相互認識に関する歴史的研究」一橋大学・ソウル大学, 文部科学省科学研究費助成 (基盤研究 A), 2006-2009 年度, 研究分担者 (代表者一橋大学吉田裕)

C 受賞

飯田市歴史研究所奨励賞 (森ゼミナール「村報に見る戦時下の農村 - 長野県三穂村村報の事例 -」『ヘルメス』56 号(2006 年 3 月)に対して), 2006 年 8 月。

6. 学内行政

(b) 学内委員会

一橋論叢編集委員 (2001 年 9 月-2003 年 8 月)

(c) 課外活動顧問

一橋大学剣道部部長 (2003 年 1 月-現在)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

小田原市史専門委員 (1987 年-2003 年)

小田原市立図書館小田原市史通史ダイジェスト版編集委員 (2004 年-現在)

千葉県史編纂専門委員 (2002 年-現在)

飯田市歴史研究所顧問研究員 (2003 年-現在)

(b) 参加学会および学術活動

政治経済学・経済史学会 [旧土地制度史学会] (1999 年度より現在まで研究委員・編集委員)

同時代史学会 (2002 年から理事)

歴史学研究会, 社会経済史学, 歴史科学協議会

(c) 公開講座, 開放講座

法政大学史学科学学生学会学術大会講演「日本農村社会史の課題 近代から現代へ」法政大学, 2002年7月

飯田市誌編纂室主催講演「地方史をひらく 下伊那の近代史から」飯田市, 2002年7月

松代大本営保存会主催「アジア・太平洋戦争終結 60周年 満州移民から考える」長野市勤労者福祉会館,
2004年6月

飯田市歴史研究所市民講座アカデミア「20世紀日本農村と農民」, 飯田市歴史研究所, 2006年7月15-16日

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

三遠南信地域ビジョン検討委員会 (浜松市・飯田市・豊橋市) 2006年10月-現在